

主体性を失わずに物事に対処



東京徳島県人会 名誉会長
橋本圭一郎さん

東京徳島県人会の名誉会長を務める橋本圭一郎さん。全国徳島県人会の会長職も担ってきた。現在はインフロンニア・ホールディングス株式会社取締役会議長だが、一橋大学卒業後、三菱銀行に入行後の経歴に圧倒される。ドイツ三菱銀行の頭取、三菱自動車工業株式会社取締役執行副社長、首都高速道路株式会社代表取締役会長兼社長、コンコルディア・フィナンシャルグループ社外監査役、ファンケル社外取締役、経済同友会副代表幹事・専務理事……などを歴任してきた。

約30年間に及ぶ銀行マン時代にニューヨークやフランクフルトなど通算12年半の海外勤務を経験した。言葉の壁は日々の奮闘で乗り越えた。英語もドイツ語も、現地で覚えた。

「少しずつ覚えるのでは仕事にならないので、たどたどしくてもいいからとにかく話すこと、聞くこと。外国語で難しいのは、言葉そのものよりも、文化論。全く違うので、背景とも言える文化論を知らない」と会話にならないんです」

語学学校に通いながら個人教師も探した。会議や議論の時には現地の社員を通訳として同行し、筆記してもらって、後で自分が聞き取ったことと見比べた。2割程度しか理解できてなかったことに愕然としたこともあった。それらを繰り返して、英語もドイツ語も身につけた。

言葉が理解できるようになって分かったことがある。

「日本の金融は米国に比べてすごく遅

れているということ」

三菱自動車工業の副社長に転身し、経営再建に取り組んだが、道は平坦ではなく、その最中に突然タイムラークライ斯拉ー社からの支援が打ち切られたりもした。

その後もメーカー、格付け機関などでも足跡を残し、首都高速道路株式会社時代には組織改革・距離別料金制の導入・大規模更新委員会の設置を進めるなど、様々な局面に対応してきた。

「座右の銘は『隋所作主 立処皆真』。臨濟禅師の禅語で、『臨濟録』に収められています。主体性を失わずに物事に対処していけば、どのような状況でも真理を具現することができるという意味です」
その強い信念があるから、信じる道を突き進むことができるのだろう。

「今のように右も左も分かりにくくなってきている世の中だからこそ、自主性をもって正しいと思う道を邁進していききたいと思っています」

生まれ育ったのは徳島市元町2丁目。現在は三菱UFJ銀行徳島支店がある場所。当時は洋服の生地屋、電気屋、家具屋、うどん屋、花屋、鉄砲火薬店、パン屋、カメラ屋の8軒が建ち並び、実家はその中の一軒。家具屋だった。

「トンカチやノミが手の届くところにあって、母にやってはいけないと言われていたのに、木を削るのが面白くてやっ

ていたなら、指まで切ってしまつて。でも母は怒りもしないで、何も言わずに医者連れて行かれて。だから傷口を縫うときに泣きませんでした。痛かったけど、やるなど言われていたことをやってこうなったのだから、これは泣けないぞと(笑)」

曲がったことが嫌いで、筋を通す母だった。

「筋が通らないことには、年上でも偉い相手でも、直言していました」

母親は信仰心があつた人でもあつた。寺町の墓に毎月お参りし、仏壇にもいつも手を合わせていた。

「墓の花が枯れていたのを見たことがなく、いつも綺麗だったのが記憶に残っています。約束していた日蓮宗総本山の身延山久遠寺に一緒に行けなかったのが残念です」

橋本さん自身もことあるごとに墓参する。日蓮宗大本山の池上本門寺への毎月のお参りも欠かさない。

内町幼稚園、内町小学校に通っていた。小学校まで歩いて2〜3分。すぐ目の前だった。その頃は、特に何をして遊んだという特筆するような記憶がなく、サッカーに夢中になったとか野球少年だったとか、音楽に傾倒していたなどという思い出はない。8軒建ち並ぶ中の一軒、鉄砲火薬店は母の姉の嫁ぎ先。3歳上と1歳下の従姉妹や、通町・中通町の友達とよく遊んでいた。

「のどかな時代でした。通町には大き

なお宅が多くて、散歩中に前を通ると三味線や長唄がよく聞こえてきていました。大阪や神戸から先生に出稽古に来てもらっていたようです。豊かな時代ですね」

その後、小5のときに両国本町に移り、徳島中学から城南高校に進学。

「中学では2週間だけ軟式テニス部に。でもすぐに9人制のバレーボール部に移って、半年ほど活動していました。高校では先輩に誘われてハンドボール部に。一応、キャプテンをやっていましたけど、それも途中で辞めました(笑)。だから、部活に熱くなつた思い出は特にないですね(笑)」

ただ、先生には恵まれたと言う。小学校には温かい情熱を持って子どもの長所を伸ばそうとする先生も多かった。また高校時代は、名物教師として知られた先生方に出会えた。

「国語の先生は文学散歩というクラブを作って、自転車で京都や奈良を回ってこられて、そのスライドを学園祭で紹介してくれました。理系が好きで、文学的なことには興味がなかったけれど、そのスライドで一気に引き込まれました」
小学校の頃から理数系が得意だったの

で、漠然と医学部に進学して医者になると思っていた。母方の叔父たちの多くが理系だったこともある。ところが高2のあるとき、医者には向かないことに気付く。

「血を見るのが怖いことに気がついたので(笑)。これではダメだな」と文系に転向。

東大、京大、一橋大、九州大、神戸大。



名前を知っている大学は限られていた。伯叔父や知り合いのお兄さんたちの出身校の中で魅力的だったのが京大。

「文系なら京大に行きたかったんです。それで実際に京大を見に行ってきました。ところが当時は学生運動の最中。京大も闘争があつて、経済学部の校舎の窓ガラスが割れていたんです。これはものすごくショックでした」

京大への憧れが一気に萎んで、だったら関東の大学にしようと考えた。

当時は国立大学の入試制度が短期間で何度かわつた頃。従兄弟の卒業大学で、得意な数学と英語の配点が高い一橋を受験し、現役で合格。卒業後は前述のとおり、経営者の道を歩むことになる。

今は徳島に限らず、半世紀以上前のどかな豊かさは望めない。地方創生、と言うものの、都会との隔たりはあまりにも大きく、創生への門戸も簡単には開きそうにない。

「徳島は城山を中心に人口が減っていて、中心部の空洞化、ドーナツ化が止まらない。それを食い止めるためにどうするか。徳島には産業がないと言われるからと、他県から産業を持ってこようとしてもダメなんです。それではゼロサムゲームになる」

ゼロサムとは、参加者が2人いたとして、一方が100の利益を得ているとすれば、もう一方はマイナス100の損失を被る得点方式のこと。つまり、1人の得がもう1人の損を意味する。決してウィンーウインの関係にはならない。

「徳島だけが良くなることはないです。日本中の地域が良くなることで日本全体が底上げされなければまさにゼロサム



ゲームになります」
 今、地方の活性化には農業の立直しとインフラの整備に中長期的目線で取組んでいくことが重要だと言う。元氣な徳島を作るための方策はあるのだろうか。
 「例えば、農業では、農業法人を作るにあたって、従業員にも株式を与え、給料だけでなく、会社の利益が増えれば、配当や持ち株の価値も増える仕組みを導入する。これは給料以外のインセンティブを付与する方策ですが、長い目で見て、担い手を増やす効果が期待できると思います」
 「インフラでは、電気は太陽光発電・風力発電を増やす方針が示され、通信は携帯電話が普及し、方向性が見えているが、問題は水道と道路の整備。老朽化が著しく、修繕が全く追いついていない。私たちもこれだけ人口が減っている中で、官に頼り昔と同じサービスを受けることは無理だと理解したうえで、民間のノウハウを活用する方向にもっと踏み込

んでいく。欧州で見られるように、地方銀行の預金など民間の資金をインフラ整備に回し、運営も民間が担う道を広げていく。建設投資が期待できることも考え合わせると、官民あげて早急に取組むべきと思います」
 「とはいえ、活性化策が全てにおいていかどうかは分からない。藍の生産で栄えた徳島が、戦後の化学染料の普及によつて輝きを失いましたが、近い将来、徳島の自然や里山が脚光を浴びるかもしれません。県の盛衰も人生の浮沈みも必ずありますが、人の世の収支は期間を長く取ると案外バランスが取れていると感じます。例えば、初代が成功し、2代目が守り、3代目が潰す、といった風に。

当面は地盤沈下を食い止めることが喫緊の課題ではありますが、新たな視点から徳島が再び脚光を浴びる日が来ることを心から願っています」
 経済、文化、歴史、宗教、哲学…。
 思わず引き込まれる橋本さんの笑顔と話術は深く多岐にわたり、真つ直ぐだ。最後に、今、世界中の関心事となっているトランプ政権の関税について聞いてみた。
 「トランプさんが何を考えているのか、誰も分からないと思います。トランプさんだけが知っている。ただ、関税が引き上げられると物価が上がるから、必ずしもアメリカ国民が喜ぶとは思えません」。
 (取材・文／北島由記子 写真／永井守)

●全国徳島県人会

北海道から沖縄まで全国25の徳島県人会で構成される全国徳島県人会連合会。『ふるさと徳島』の発展を願う気持ちから、香川・徳島県人会『阿讃クラブ』が中心になり、全国の徳島県人会に呼びかけ、2005年5月に設立された。

連合会は“郷土愛の精神に基づき、徳島県発展のための各種支援及び全国各地において組織されている徳島県人会同士の交流と親睦を図ることを目的とし(会則第2条)、毎年1回の総会などの活動を行っている。

全国には少なくとも25の徳島県人会があり、総会員数は約7000人。

北海道：札幌、旭川、帯広、倶知安

関東：東京

中部：中部、三重

近畿：近畿連合会、堺、京都、奈良、神戸、和歌山

中国：広島、山口

四国：香川、愛媛、高知

九州：福岡、熊本、鹿児島、宮崎、大分、佐賀

沖縄：沖縄

海外：11団体(ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン、ニューヨーク、北カリフォルニア、南カリフォルニア、トロント、上海、メキシコ、香港、台湾)

●東京徳島県人会

『首都圏在住の徳島出身者の親睦を図る』ことを目的とし、大正15年に設立。2025年5月現在会員数451名。

近年では、100万人のクラシックライブ「子どもたちに『音楽を届ける』プロジェクト」への寄付、クレエール子ども食堂や放課後子ども教室ポコなどの支援をしている。